



[ 自己紹介 ]

篠原 順一

所属：産業支援課

着任：令和5年10月1日～

出身：東京都板橋区

秩父市の印象

平野の多い関東において有数の山間部、三峯神社・札所など寺社の文化。

どんな地域おこしがしたいか

「銘仙が息づく町・秩父」というイメージを広めたい。

活動目標

## 市の伝統産業「秩父銘仙」の普及促進

---

活動内容

- 「ちちぶ銘仙館」での接客/体験対応
- 銘仙館ギャラリーの銘仙展の企画運営
- 「古民家de銘仙プロジェクト」による地域活性化
- SNSを活用した広報活動
- 産業遺産資料の収集研究
- 「秩父銘仙」関連の商品開発



### 「企画展を通じた関係人口の構築」

ちちぶ銘仙館の集客力、また秩父市内への「銘仙」を通じた集客を強化するため、入館者や来訪者の満足度を高める企画展示の立案とその充実化を図ると同時に、産業遺産の歴史的資料の収集研究の成果を展示に活用した。



### 「銘仙館含む銘仙の情報発信とPR」

SNSの個人アカウントを活用し、フォロワー3000人以上に届ける発信基盤を構築。ラジオ出演や新聞取材を通じ市外からも注目され、他自治体からの来訪者の促しとなった。SNSを通じた交流から三重県度会郡玉城町の町制70周年を記念した銘仙展を町指定文化財「銘仙展」を開催した。



### 「秩父銘仙関連の新商品開発」

秩父の風土に因み、四季それぞれを代表するモチーフの復刻柄銘仙「四季」シリーズを監修、逸見織物と新啓織物にて生産。秩父織塾工房に2柄意匠提供した。「四季」銘仙柄をデザインに取り入れた復刻珈琲を「ちちぶコーヒー」と逸見織物の三者で開発、初回分1000個が完売し追加1000個を生産中。

## ここに注目！

・「銘仙」はかつて四大や五大と呼ばれた産地を中心に、昭和5年（1930年）に発足した「全国銘仙連盟会」に所属した産地が11ヶ所も存在していたが、現在ではその生産地は秩父のみとなっている。その銘仙の織元は秩父郡市に3社、商業的な活動が見られるのは実質2社で、かつて一世を風靡した銘仙は秩父において辛うじてその命脈を保っている。



## 今後の活動

昭和の百年目を記念して開催した「昭和百年メイセン・クロニクル展」の際に調査研究した資料や銘仙館所蔵の資料、他産地で収集した資料や情報などを元に、銘仙産業の歴史を掘り下げた上でまとめた冊子を制作し、銘仙の歴史が後世に伝わるような資産を秩父市に残したいと思います。

市内外の人々が自然と「銘仙が今も息づく町・秩父」という言葉を連想するような、そのような空気感を醸成する活動を継続したいと考えております。